

令和7年度木曽地区酒米中間検討会を開催しました！

○実施日 7月30日（水）

○場 所 木曽町福島 JA木曽本所会議室

○内 容

木曽農業農村支援センターでは、水田の有効活用を図る重点活動として、酒米の生産拡大に取り組んでいます。特に、長野県が育成した酒米品種「山恵錦」に注目し、地元の酒造メーカー4蔵から高い需要があることを踏まえ、木曽地域内で安定的に供給できる生産体制の構築を目指しています。

この取り組みは、生産者と酒造メーカー（実需者）との橋渡しを進める形でスタートし、今年で3年目を迎えました。地域資源を活かした酒米生産を通じて、農業の振興と地元産業の活性化を両立させることを目指しています。

今年も7月30日に、地元の酒造メーカー4蔵と「山恵錦」の生産者、JA、町村、町村農業委員会が一堂に会し、中間検討会を開催しました。この会では、酒造メーカーから木曽産「山恵錦」の品質に対して高い評価をいただき、地元での生産拡大への強い要望が寄せられました。

現在、主食用米の価格高騰により、酒米の生産拡大は容易ではありません。しかし、酒造メーカー4蔵からは、長期的な視点で地元産「山恵錦」の増産を望む声が上がっており、今後の取り組みに向けた意欲的な意見交換が行われました。

検討会では、昨年地元で生産した「山恵錦」で4蔵がそれぞれ醸造した地酒を試飲し、将来、地元産「山恵錦」で、4蔵それぞれの個性を味わえる地酒が販売されることに思いを馳せました。

※「山恵錦」は長野県で育成した醸造特性、栽培特性に優れた酒造好適米です。



写真1：現地酒米展示圃の生育状況の説明



写真2：昨年産「山恵錦」4蔵の地酒試飲